
ぼくらは虚空に夜を視る ~ 最強の戦士と不屈のエース・オブ・エース ~

霧間誠一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくらは虚空に夜を視る　　～最強の戦士と不屈のエース・オブ・エース～

【Nコード】

N6874U

【作者名】

霧間誠一

【あらすじ】

虚空牙の大群を全滅させた兵吾。彼はなんとミッドチルダに流れ着いていて・・・

ぼくらは虚空に夜を視る　　のクロスifストーリー！

魔法を視る（前書き）

はじめまして！ 初投稿です。 指摘や感想、 お願いします。

魔法を視る

「……ああ」

無窮の星空のもとで、戦士は全てを忘れて、まるで初めてのことに遭遇した子供のように、潤んだ目で茫洋と見つめ続けた。

その虚空にして虚無ではない、果てしなき星々の 夜の彼方を。

気がつくと、森の中にいた。

(……えーと、俺は確か敵と戦ってて……ここはどこだ?)

現状を把握しようとしたその瞬間、後ろから、パキッと小枝の折れる音がした。

「何だっ!?!」

後ろを振り向くと、3、4本の触手を伸ばした円柱型の機械が彼めがけてその触手を振り回してきた。

「やべえっ!」

咄嗟にかわすが、別の触手が襲いかかってくる。

と、その時、上空から桜色の球体が飛来し、機械に命中し、爆発した。

「そこの君、大丈夫だった?」

「何だ?」

声のした方向 上を見上げるとそこには、

(と、飛んでいる!?)

見たところ20歳くらいだろうか、白を基調とし所々に青いラインが入っている服を着、杖をもった女性が心配そうに彼に話しかけて来た。

「私の名前は高町なのは、君の名前は?」

「お・おれは兵吾、工藤兵吾・・・です」

魔法を視る（後書き）

サブタイトルはぼくらは虚空に夜を視るのくを視るから。

更新は遅くなるかもしれませので気長に見守っててください。

—（・—・）—

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6874u/>

ぼくらは虚空に夜を視る ~最強の戦士と不屈のエース・オブ・エース~

2011年10月9日10時38分発行